

二葉のはらっぱであそぼう！ 企画一覧



基地作り：素材は準備してありましたが、遊ばれませんでした

ベーゴマ：用具は準備していましたが、人員配置できず実施しませんでした

当日の参加者

乳児 7人 幼児 62人 小学生 62人 中高生 1人

大人（男 47人 女 104人 実行委員・スタッフ 37人） 合計 325人

会計報告

収入	社会福祉協議会活動助成金	18,267 円	支出	会議会場費	5,200 円
	会場カンパ (山中小学校PTA、浅間台小学校PTA、有志の方々)	9,800 円		飲料、氷代	5,689 円
	おばちゃんち会計より	10,982 円		保険料	3,000 円
				雑費	10,239 円
				報告書、配布書類印刷	14,921 円
合計		39,049 円	合計		39,049 円



出入口 外観・受付



11時を待たずに、二葉のはらっぱに親子が次々とやってきました。受付では、まず子どもにも大人にも「掟」を読んでもらってから、手の甲に参加の証に二葉マークのスタンプを押しました。

一斉開催の日のことが載った新聞記事を拡大して掲示し、みてもらいました。

帰りには、大人にはアンケート、子どもには、お気に入りのところに3枚のシールを貼ってもらいました。男女年代別に色分けしました（P.35）。

帰りの顔は大人も子どもも本当に満足したいい笑顔でした。

＜荻野正 渡辺美恵子 幾島博子＞



この日の掟は、大人と子どもとシンプルに一つずつ。声を出して読んでくれた子もいました。



泥んこ遊び 穴掘り

事前の計画としては、落とし穴ができるくらいの穴掘りを考えていましたが、前日の下見で思いのほか地面が硬く穴掘りはできないかなと思っていたところ、当日はプールからあふれる水の通り道づくりをきっかけに、「川づくり」がスタート。子どもたちが集まってきて、硬い地面をスコップで少しずつ川の幅をを広げたり深くしたり、いつしか川に橋を架ける子が出てきたり、川の先にできた水溜りをせきとめ池ができ、そこにカエルを放す子まであらわれたりと、大人の心配をよそに、子ども達それぞれが思いおもいの楽しみ方を見つけ、黙々と土いじり、泥遊びをしている様子がみることができました。

＜八神尚美 岡田浩介 廣田耕一＞



水遊び



残暑、猛暑、酷暑、照りつける日差しの中の外遊び、水遊びのできる場所を確保しよう。しかし、現場には池もプールも何も無い、それどころか水道すら通ってない。大人の知恵と体力を駆使し、鉄パイプを組み、ブルーシートをかぶせて、即席のプールが完成。次は水の確保、となりの中学校からホースを伸ばす、その距離およそ 400m。普通の水道にそんな水圧があるのか?ジョイントは何本いるの?ホースはどうする?そんな苦心の末、「二葉のはらっぱのプール」が完成。そして、大人の出番もここまで。

その後は、子どもの豊かな発想が、この 3m×2mの空間で展開された。はじめは、水を掛け合うだけのプールが、こぼれた水の排水路をつくろう!もう少し広げて川にしよう!川を渡る橋をつくろう!ダムをつくろう!ダムを決壊させよう!たかが水遊び、されど水遊び、子ども達のアイデアとキャーキャーと言う声があふれた、心地のよい水空間でした。

＜市川貴弘 犬塚尚樹＞



ドラム缶風呂



ほら入ってみなよ・・・お父さんに無理やりドラム缶風呂に入れられそうな男の子。少し半べそで、抱き上げられ、中に入れられた。足を曲げて、入ることを拒絶している。

ドラム缶風呂の中に敷いた足場(ピッタリの大きさのなべのふた)は浮かんでいて、その上に足が置かれた。フワーと下がる足場。泣き出す子ども。体験させたいというお父さんの気持ちになって、私もとっさに「雲に乗るみたいでしょ」言った。でも子どもの気持ちを変えることはできなかった。しづしづ風呂からだすお父さん。

どれくらいの時間が流れただろう。その子がまた戻ってきたのだ。おそらくどこかで見ていたのだ。自信たっぷりで入る子どもたちを。フワーと足場が浮くのが面白いと騒いでいる子どもたちを。気持ちよさそうにつかる子どもたちを。

「入りたい」と言ってきた。彼を支えてドラム缶のふちにのせる。ゆっくりと足を伸ばす。まだフワーと足場が沈む感覚には慣れないのだろう。

子どもにとっては、底なしの奈落に落ちていく感覚になるのだろう。足を出しては引っ込める。恐怖。だけど前とは違う。自分から選んだものだから、それはハードルになる。

何度か試みて、ようやく風呂の中に・・・気持ちよさそうな顔。「ねえ、交代してよ」気がつくと、長風呂の彼がいた。ずうーと昔から、よく入っていたんだという顔をして。



セミが鳴いていた。まだまだ暑い。ここは品川、はらっぱの湯。

「ほらほら、のぼせちゃうよ。プールで水遊びしてきたら・・・」

<宮里和則 荻野美樹>



美味しいコーナー 野草鍋

はらっぱに自生している植物を食べてみよう!と企画しました。

私たちが普段食べている野菜などは品種改良されていて癖も少なく食べやすいものです。

はらっぱに自生している植物はその正反対で食べにくいものがほとんどです。でも、そんな野草を食べてみたら・・・きっと思わぬ発見や想像が広がるのではないかな?と思いました。

今回はそのきっかけ作り。

- ・ノビルの間(ネギに近い味でした)
 - ・オニタビラコ (かな?タンポポみたいな葉っぱ:癖がありました)
 - ・アスパラの葉っぱ (これは美味)
 - ・エノコログサ (通称猫じゃらし:口の中でとてもいつまでも邪魔になる、実に生えているとげを焼いてから食べると穀物の甘みを感じます)
- これらの野草を食べやすい天ぷらにしてみました。



大人も子どもも食べに来てくれました。子どもの常連さんもでき、定期的に食べに来てくれました。なにやら怪しい植物をとってきてくださった方もいました・・・食べませんでしたけど(笑)

試食した皆さんの感想も上々でした。

<村田丈一 宮原元>

自然素材造形コーナー



造形コーナーでは、自然の中にあるものを利用して自由に『もの作り』をしてもらうことにしました。ですが、ゼロから考えるのは難しいようだったので、サンプルを見せたり、アドバイスしたりしました。

サンプルとしては、藤蔓を使ったリースやドングリのトトロなど。その他には段ボールを切ったものを用意しておき、フレーム作りを提案したりしました。

子どもたちはフレームが作りやすかったようで、ほとんどの子たちがフレーム作りをしていました。また、シュロの葉っぱを裂いて編み、ブレスレットを作ったりもしました。

段ボールなどの持ち込みが多くなってしまったことが少し残念でした。

<石田芳枝 磯田寛子>

